

高山スーパースクールゾーン北中保護者説明会

- 1 開催日時 平成 25 年 1 月 24 日（木）19:00～21:00
- 2 開催場所 生駒北中学校多目的室
- 3 出席者 （事務局）池田福祉健康部長、峯島教育総務部長、吉川こども課長
真銅教育総務課長、伊東教育指導課長、平田学校給食センター所長、吉岡教育総務課課長補佐、吉村教育指導課課長補佐、
山口学校給食センター副所長
(生駒北中学校) 安達校長

(安達校長、事務局)

【挨拶】

(事務局)

【出席者紹介】

(事務局)

【説明】

4 質疑・意見等

○小中一貫校の実施の是非

参加者：保護者の間で学校の先生に不満をもっていたとも聞いている。小中一貫になるなら、先生にも研修を受けてもらって、よい学校に、誇れる学校にしてほしい。そうなるなら、小中一貫もよいことだと思う。

参加者：なぜ小中一貫なのか。小学校と中学校を別々に改修するのと、小中一貫校を新築するのとではどちらが工事費が安くなるのか。

事務局：別々に改修するより小中一貫校を新設する方が費用は多くかかる。施設一体型で行うことに教育内容での意味があることから、この構想を提案した。

参加者：幼稚園と保育園も一緒にすると、合計12年間同じ顔ぶれになる。そして高校へ行く時に初めて多くの中に入っていき、知らない子ばかりになる。心の問題が大きい。今の時点では、このままの方がよいのではないかと思う。例えば、生徒が10人以下ぐらいになったときに、中学校を統合する方がよいのではないか。

事務局：近い将来、幼小中とも各学年1クラスになる見込みなので同じことである。

参加者：それはそうだが、学校の位置が変わることだけでも環境が変わる。

参加者：不登校の問題や学校の環境のことは、大人が整える問題だと思う。子どもたちからは意見を聞いたことはあるのか。

事務局：直接聞いたことはないが、例えば、奈良市の田原小学校では、H17年度から小中一貫教育を行っていて、小中併せて100人の児童生徒がいる。たえず保護者や子どもたちの意見を聞いており、子どもたちの意見としては、「はじめはどうなるかわからなかったけれども、今はお兄ちゃんお姉ちゃんと過ごすことが楽しい」と聞いている。また保護者もよかったという意見が多い。

全国の小中一貫校では、中一ギャップも少なくなったと言われている。中一ギャップがないところでも、学力向上、体力向上等でメリットがある。

参加者：私も引っ越してきたときに、小中まで一緒なので高校でギャップがあるといううわさを聞いた。しかし、私の経験では、そのことが原因で高校をドロップアウトしたという例は知らない。本当にそうなのか、不安だけが先走っているのか、市教委も調べてほしい。インターネットのブログで明日村でも同じ状況だというのを聞いたが、見守りすぎもよくないのかなという意見だった。

校長：高校に進学した後に生徒がドロップアウトしたという例は知らない。

この前も中学校の卒業生が学校に立ち寄って先生と話をして帰った。子どもは適応能力はあると思う。この地区は教育熱心で、どんな環境にあっても成長するようにうまく育てていると思っている。子どもなりに解決していく力をつけていくことが重要であると感じた。

参加者：子どもにとって成長するには、ちょっと違った環境に入れて、子どもたちが少し苦労することが必要だと思う。小中一貫校は、温室すぎるところが問題だ。

参加者：北小ではみんな顔見知りだし小学生をかわいがる態度をもって中学生になっている。逆に、地域外との交流の方が必要だと思う。学力は上がってほしいが、効果にあげられているような部分は今の北小でもできている。

それよりも先生の負担が増えて、そのことで子どもたちにとってマイナスになっていかないかということの方が心配である。自分の子どもが通っているときは、補助の先生もなく、1クラスでは大変だということだった。

いろんな意見を聞いて、誰が決定するのか。市教委なのか、保護者か、教員か、中心は誰なのかははっきりしてほしい。

事務局：教育委員会事務局が懇話会等でいろんな意見を聞いて、構想を練り上げていく。言うまでもなく、今までよりも悪くなるようなことは絶対に避けなければいけないと考えている。

○広報関係

参加者：今日の朝日新聞に、北小の保護者説明会で反対が多かったと載っていた。小中一貫校という未知のことに対し不安である。市街化調整区域をはずすとかできないのか。人数が減ったから小中一貫なのか。本当は小中別が望ましい。説明会の時間も考えてほしい。夜は女性が出にくいので参加が少ないと思うし、懇話会のメンバーも男性が多くなると思う。

事務局：意見を聞く場はいろいろ設けていきたい。

参加者：教育委員会の意思決定は経ているのか。

事務局：昨年10月の教育委員会において、この構想について報告している。

参加者：議事録のどこを読んでも決定が書いていないが。

事務局：報告の仕方については厳しい言葉も頂戴したが、内容については大変すばらしい計画であるとの言葉をいただいている。

事務局：これはたたき台として出しているもので、児童数が減少する中でよりよい教育をやっていききたいということである。

参加者：市長が決定した時期はいつなのか。

事務局：以前から協議していたが、まとまったのは9月である。

参加者：この構想は決定事項なのか。

事務局：タウンミーティングでも市長は、「よい提案だと思って出しているが、反対が大多数なら実施しない」と言っている。

参加者：いつのタイミングで意見を集約するのか。

事務局：来月から、保護者、学識経験者等での懇話会を設置する。それぞれの代表から意見をもらおうと同時に、保護者の間でも意見を聞く場をもってやっていきたい。

参加者：具体的なゴーサインはいつ出すのか。知らない間に実施される可能性もあるのか。

事務局：不安に思うことが多いと思うが、我々はよいものだと思って提案している。その

点についてもっと説明していく時間が必要だと思っている。我々の目標は教育力のアップである。施設の建て方にしても十分に考えてやっていきたいし、設計も意見を聞いてやっていきたい。不安なところも出していただいて解消していきたい。

事務局：こうした説明会での意見も要約し、市のホームページに出していきたい。また、懇話会の委員も重責がかかってくると思うので、PTAの集まり等など、機会をとらえて市教委からも説明したい。なお、タイムスケジュールは、現在示しているものが最速のものだが、設計にも十分に時間をかけていきたい。

○市の小中一貫教育についての説明

参加者：なぜ、この地区で実施するのか。他地区との中間の地域に学校を建ててやっていく方がよいのではないか。

事務局：小中一貫教育はよいところが多いので、いつかやりたいと思っていた。生駒台小、光明中も小中が同じ校区だが、規模が大きくなりすぎて難しい。校区が同じ、規模が適正ということで、北小、北中での実施がよい。

参加者：グラウンドの話だが、なぜ北中よりも狭い北小の敷地に計画されたのか。北中の方がよいと思う。

事務局：バス停の位置や高山幼稚園の土地を第2グラウンドとして活用することも含めて、北小の敷地で提案したが、今後、懇話会の意見も聞いて考えていきたい。

参加者：教育力を高めるということを知って安心したが、今も北小と北中は近いところにあるので、連携はしていけると思う。施設一体型にしたら今よりこんなことができるということの説明してほしい。

チャイムの問題などは分かっているので、それ以上の具体的な課題も出してほしい。

保護者にも反対、賛成がいるのは仕方ないが、そのことで保護者の間に溝ができるというようなことにならないように、経緯をはっきり知らせてほしい。

「北小での説明会やタウンミーティングでも議論があった。」と言われるが、参加していない者にとっては分からないので、資料の提示や意見の経過を出してほしい。

事務局：我々の狙いは、学力のアップ、人間関係の構築、体力のアップ等を目指した指導を9年間一貫して行うということである。北小ではいじめ、不登校などもないとおっしゃったが、全国的には課題となっていることである。

校舎が別でも同じようなことができるのではということだが、校舎を一緒にして職員室も一つというところに大きな意味がある。奈良市の田原小中学校でもそうすることによっていろいろなところで効果が出たということである。

部活動の面でも小学校5年生から一緒に部活動を行っているところもあるし、小学校の先生が自分の得意な部活動を指導しているところもある。

御所市の葛小中学校でも最初は連携型で校舎が別々でやっていたが、もっとこんなことをしたいという思いから施設一体型の小中一貫校にし、そこからいろいろな取組ができるようになった。連携型は近いようで遠いものである。

事務局：小中の教育課程も今と変わらないような形で行う。また、小中が一緒になっても、意図的にふれあう機会を作っていかなければならないと思っている。例えば、中学生が小学生の読み聞かせを行っているところもあるし、中学校の先生が小学校の授業に入っていくこともある。

参加者：今日の資料を見て、教員の数が少ないのに驚いている。その中で、中学校の先生が小学校もフォローするのはどうかと思う。

事務局：大きな学校では専科の先生がつくが、各学年1クラスの単学級編成になるとこうなってしまう。実際にはそれ以外にも生駒市独自の取組として小学校に30人クラス編成等で市費の教員をつけている。北中では、体育や音楽、英語も市費の講師をつけるなど、足りない部分を市費で補っている。また、北中では複数の教科をもっている先生もいる。

小中一貫校になれば、さらに小中のコーディネーターとしての先生も必要と考えており、市費の講師を配置したいと思っている。

○実施に向けての要望

参加者：国道163号線以北は開発の波が来ていない。もし開発があれば少子化もなかった。全国では、幼、小、中、高、大の一貫教育を実施しているところもあると聞いている。今回は小中一貫だが、新しい波をいただいたと思っている。皆さんはすぐに賛成はできないと思うが、住民どうしが話し合うことも必要だと思うし、市は教育力を高めるということをメインにおいてやっていただけたらありがたいと思う。

参加者：卒業生が訪ねてきたり、学童保育をのぞきに行ったりとか、あたたかい雰囲気のある地区だと思うが、教育力をあげるということで先生が忙しくなり子どもにとってマイナスにならないか心配である。

現在は、幼稚園と小学校の交流はあまりないのではと思うが、私立のこども園になると、さらに小学校との交流が遠くなるのではないか。

先程、開発のことも出たが、高山第二工区のことなど活性化する手段はあったのではないか。人が減っていく中で新しいものを作っても、目的を達成できなかつたら意味はないし、地域に必要なことは学校だけではないので、いろいろな意見を聞いて多方面からも検討してほしい。

懇話会の話もホームページだけではなく、お知らせする場を設けてほしい。

(事務局)

【終わりの挨拶】